

児童が自然に親しみ、

自然を愛する心情や態度を育てる環境教育

1 はじめに

本校は、市街地であるにもかかわらず自然環境に恵まれている。学校のそばには、緑豊かな中央公園や金比羅山があり、格好の自然体験ゾーンとなっている。また、校区を流れる天籟寺川は、ホタルの飛び交う姿が見られる川として有名である。そこで、このような立地条件を生かして、生活科や総合的な学習の時間の中で地域を教材とし、自然体験、社会体験、生活体験など実体験を通じた様々な経験をさせる機会を設けることで、知識や理解に実感をもたせるようにした。そして、このような学習を通して豊かな自然とその恵みを大切に思う心を育み、持続発展教育の実現を目指した。

2 取組の実際

(1) 自然環境を生かした生活科の取組

低学年では、生活科の学習として、緑豊かな中央公園を中心に自然と触れ合う活動を行っている。

1年生では、地域の保育園の園児と交流する場を中央公園に設定し、フィールドワークを通して、園児とともに自然を満喫していた。身の回りの自然の中から秋を見つけ、季節の変化に気付くことができた。また、中央公園で見つけたドングリや葉っぱなどを用いて遊ぶものを作ったり、遊び方を工夫したりして、自然を身近に感じながら活動する喜びを味わうことができた。

2年生では、サツマイモの栽培と収穫を祝うおいもパーティーを実施した。児童は自分が掘ったサツマイモの長さや太さ、形を友達と比べ合っていた。同じ畑で育ったさつまいもでも1つ1つ違いがあり、多様であることに気づいた。収穫したイモは、保護者に手伝ってもらい、蒸して食べ、収穫を楽しんだ。サツマイモの栽培や観察を通じ、自然への愛着や自然からの恵みについて学ぶ事ができた。

(2) 環境学習をテーマとした総合的な学習の時間の取組

本校では、総合的な学習の時間の中に環境をテーマとした学習を位置付けている。

3年生では、ホタルの生態や飼育の学習を通して自然を大切にしようとする意欲と態度を身に付ける子どもの育成を図った。3年生は、学校でホタルとそのエサであるカワニナを飼育していることは、知っているが、実際に飼育している様子を調べるのは初めてである。学習が進むにつれて、このすばらしいホタルを一匹でも多く育てたいという



フィールドワークを楽しむ1年生



育てたサツマイモを収穫する2年生



ホタルの幼虫を観察する3年生

強い思いをもつようになった。4年生の学習は、単にホテルの生態や飼育方法を調べるだけでなく、ホテルが生息するような環境をつくるためにはどうすればよいのかを考えさせた結果、自然を大切にしていこうとする意欲と態度を育てることができた。

4年生では、訪れた人の心を和ます公園について考え、自分たちにできる行動を起こすことで、地域社会に参画し地域の美化に努めようとする態度を養うようにした。校区の清掃活動や公園の花壇の手入れなどを通して、自然を大切にしようとする心情と態度を身に付けることができた。



公園の花壇を手入れする4年生

(3) 大学と連携した総合的な学習の時間におけるESDの取組

ESDの推進を図る取組として5年生の総合の時間を使って校区の環境に視点を当てたグリーンマップ作りを実施した。実施に当たって、ESDについて以前から研究を進めていた、九州女子大学の平山准教授や学生のみなさんにサポートしてもらった。児童が班ごとに「土地と水」「文化的象徴」「グリーン経済」など全部で8つの視点を設け、その視点に沿って校区内を調べていく活動を実施し、班ごとにグリーンマップを作成した。そして、その結果を校区の環境についてよい点、課題のある点、自分たちにできることにまとめ、保護者の前で発表した。グリーンマップ作りを通して、児童は「見る視点」を決めて、校区内を観察することができ、普段は気付かなかった様々なことに気付くことができた。「グリーン経済」で調べた班は、リサイクルボックスなどがスーパーの前に設置しているが、その前にカートが置かれ利用しにくくなっていることに気付いた。また、「土地と水」という視点で調べた班は、地域に川の水が増水した時に水を貯める貯水槽の水門を見つけ、安全に暮らせるための工夫がされていることに気付くことができた。その他にも環境を守るために地域の方が清掃活動などを絶えず行っていることにも気付くことができた。今回の実践を通して、自分たちが暮らす地域に、環境や人に優しい所が多くあることに気付くとともに、どこに問題があるのか、それをなくすためには自分たちは何をしていけばよいのかを考えることができた。そして、この地域を愛し、それを守ろうとする気持ちが芽生えてきた。



校区を調査する児童



調査したことを発表する児童



児童が作成したグリーンマップ

3 おわりに

本校では、恵まれた自然環境を通して、児童が自然との関わりを深められるような取組を行っている。本年度の実践を通して、児童は自分の身近には豊かな自然が多くあることを再認識するとともに、自然環境の保護・保全に対する関心・意欲を一層高めた。全校児童の取組としては、毎週金曜日の登校時に、校区内に落ちているゴミを拾うゴミ0運動が何年も前から定着している。今後も様々な教育活動を通して、児童に自然のすばらしさとそれを守ることの大切さを学ばせていきたい。



毎週金曜日のゴミ0運動